



四万十町
町内「ふら〜り」散策

神山町

さかきやまちよう



茶屋のある呼坂峠を歩く人々

J R窪川駅隣りに新築された四万十町役場本庁舎。東棟と西棟を結ぶ廊下の下が駅のホームである。線路を挟んで、東棟は神山町、西棟は琴平町になる。

神山町は今でこそ、警察署やJA四万十、農村環境改善センターなどがあり、窪川地区では町民の生活における中心的な役割を果たすエリアと言えるが、昭和26年に窪川駅が開業するまでは、辺り一帯が田畑であった。昭和のはじめ頃は、わずから戸の農家が、神山集落の背後にある天日山の南麓に点在するのみで、むろん道路も今の場所ではなく、呼坂峠から窪川の街中に向かって下りてきた辺りから天日山の麓を、集落を覆うように古市町の方向に抜けていた。それが呼坂トンネル開通を経て、窪川駅開業とともに一変する。戦国期以来、街の中心は本町辺りだけであったが、神山町が交通の中心となったことで「街」としての

貴重な写真からうかがえる。喜んだようである。これも当時の

エリアが広がったのである。それに伴って、道路も現在のようにJRに沿って走るようになった。現在JA四万十のある場所には窪川高校の前身があった。新校舎建設中に火災に遭い、現在の北琴平町に移転した経緯は北琴平町の紹介で述べた。

さて、窪川の街中への北東の玄関とも言える呼坂であるが、その地名の由来が面白い。戦国期、一条氏の統治下にあった窪川の町は、長宗我部氏による北東からの侵攻を常に警戒していた。侵入路にあたる呼坂は警戒の最前線。ここに配置された見張り番は、長宗我部軍勢の気配を感じたら直ちに街中に向かってその危険を叫んだのだという。大きな声で、街中にある味方の軍勢を呼び続けたのだそう。そして、この峠を呼坂と名付けたという。近代になってトンネルが開通するまでは峠に茶屋もあり、茶屋の前を行き交う人々の写真が残っている。また、トンネルが開通した時には、人々はそれはそれは喜んだようである。これも当時の



トンネル開通!



呼坂トンネル開通を喜ぶ

町のうごき	(6月30日)		前月比	出生 死亡 転入 転出				適正值(mg/l)	7月15日	
	男	女		男	女	計	リン酸		硝酸	アンモニウム
	8,733	9,848	-9	4	16	11	8	≤ 5.0	1.416	測定範囲以下
	9,848	18,581	-13	0	15	19	17	≤ 0.5	測定範囲以下	測定範囲以下
	18,581	8,707	-22	4	31	30	25	≤ 5.0	測定範囲以下	測定範囲以下
	8,707		-12	(6月中の届出)				≤ 1.0	0.500	測定範囲以上
								≤ 10.0	測定範囲以上	

四万十川の
水質状況

調査：大正(吾川)
資料：四万十高校自然環境部

● 四万十町ホームページアドレス <http://www.town.shimanto.lg.jp/> ●

※ 広報「四万十町通信」はホームページでも、ご覧いただけます。(pdfファイル)